

本時のねらい(6,7 / 7)

- ・評価テストや単位時間後との自己評価をふり返し、個に応じたコースを選択し、基礎基本の確実な定着を図ることができる。
- ・興味・関心や能力、適正に応じて選んだ問題に主体的に取り組み、学ぶことの楽しさや成就感を味わうことができる。

習熟度別学習(3TT)

	考え方コース(T1)	かけ算のきまりコース(T2)	計算コース(T3)
ね ら い	〔数学的な考え方〕を習熟する (基本コース) 乗法の用いられる場面について、 根拠を明らかにして、立式することが できる。 (応用コース) 乗法の用いられる場面について、 自分の思考過程を表現することが でき、それを他の人に的確に伝達 することができる。	〔知識・理解〕を習熟する 乗法に関して成り立つ性質や法則がわ かる。 乗数や被乗数が0の乗法の式表示につ いては、評価テストで全員ができてい たため、第2時に確実な定着が図れた ものとみなし、ここでは行わない。	〔表現・処理〕を習熟する ・乗数や被乗数が0や10の乗法の計 算ができる。 ・100ます計算で、自己の記録を更 新することができる。
児 童 の 実 態 を も と に 仕 組 ん だ 学 習 活 動	・文章問題を苦手とする児童が多く 「解けるようになりたい」という 願いを持つ児童が多いた。しかし、 個人差が大きいため、どの子 にも成就感を味わうことができる ように、個に応じて選択できるよ うに2コースを設定する。 (少人数グループ学習) 文章問題をわけをはっきりさせ て解けるようにしよう。 (基本コース) (応用コース) 児童が筋道立てて 自分のペース 考えていけるよう でどんどん学習 に、考えの方向性 を進めていく。 を示すヒントが書 自力解決した かれている。 後、仲間同士で それをもとに自力 自分の考えを説 解決をし、その後 明しあう。 教師の指導援助を 自分の思考過 受けながら、根拠 程を表現したり、 を明確にしていく 他の人に伝え合 ような交流をす ったりすること る。 で、根拠を明確 にしていく。 問題については、別紙参照	・第4時、5時のきまりがよくわから ない児童が多かったため、もう1度教師 の指導援助を受けながら、交換法則や 分配法則の理解を図る。 (少人数グループ学習) きまりを知り、使えるようにしよう 既習内容をもう一度見直し、きまりを みつける。 ア: $(4 \times 2) \times 5$ 、 $4 \times (2 \times 5)$ 、 $4 \times 2 \times 5$ からいえるきまりを見つかる。 イ: $(5 + 2) \times 6$ 、 $(5 \times 6) + (2 \times 6)$ からいえるきまりを見つかる。 ア: はじめの2つを先にかけても、あと の2つを先にかけても答えは同じ。 イ: 先にたしていきにかけても、ばら ばらにかけて後でたしても答えは同 じ。 他の数についても調べ、一般化を図る $(3 \times 2) \times 5 = 3 \times (2 \times 5)$ $(9 + 1) \times 10 = (9 \times 10) + (1 \times 10)$ 練習問題を解き、習熟を図る。 $4 \times 7 = 4 \times 6 +$ $(3 \times 2) \times 5 = 3 \times (\quad \times 5)$ $(8 + 2) \times 10 = (\quad \times 10) + (2 \times 10)$	・0や10のかけ算に自信が持てない 児童、もっと速くかけ算ができる ようになりたい児童、もっと難し い問題に挑戦したい児童など、願 いは様々なので、コンピュータを 活用し、問題を選択して個の速さ で進むようにする。必要なとき に教師の援助を受ける。 (個人の学習) 自分にあった問題を選び、計算は かせになるよう。 (基本) (発展) ・0のかけ算 ・何十、何百の ・10のかけ算 かけ算 ・かけ算九九の表 ・3口のかけ算 プリントアウトして練習問題を解 き、答えあわせをする。 百ます計算のタイムを計る。